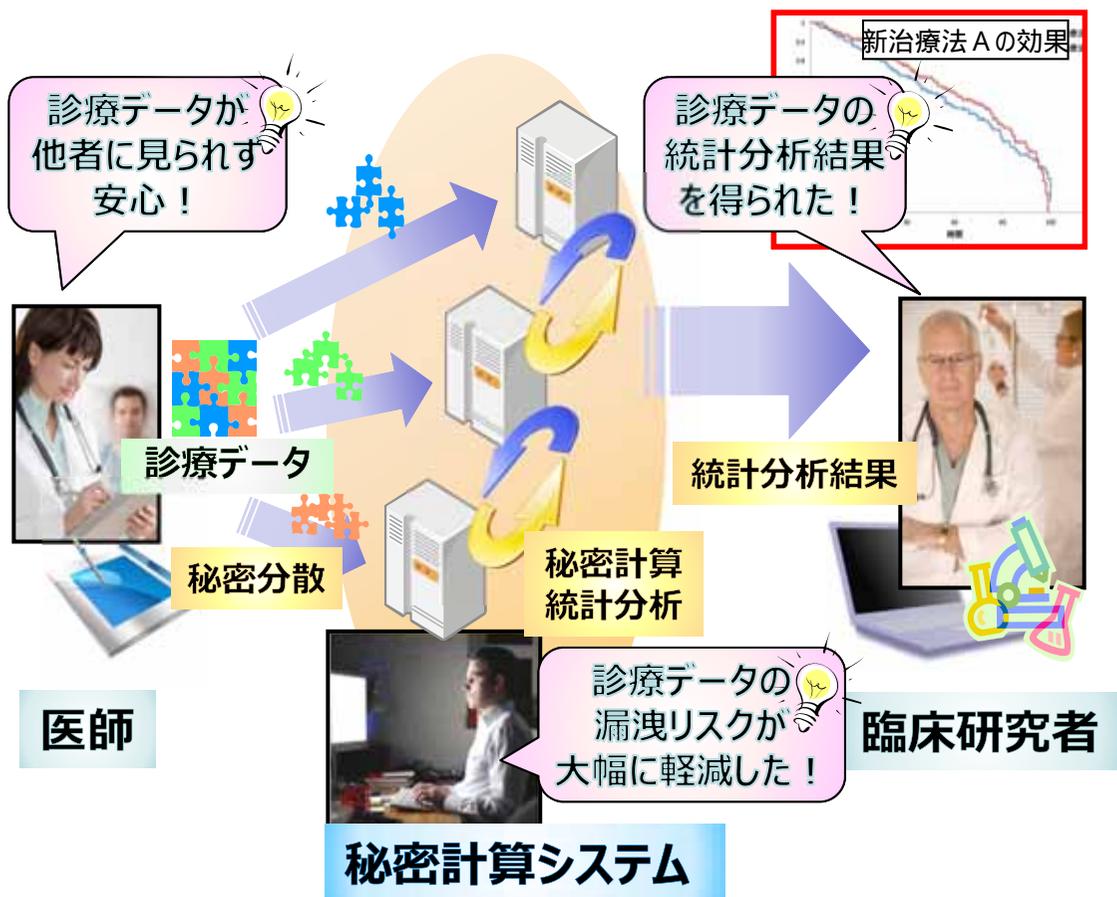


医療統計処理に画期的な暗号化技術の実用化に目処

～ 秘密計算技術により臨床研究データのさらなる安心・安全な活用が可能に ～
 (2012/2/14 プレスリリース)



【概要】

JALSG (成人白血病治療共同研究グループ) の臨床研究データに、暗号化したまま統計分析が可能な秘密計算技術を活用し、実用に十分な速度性能を達成。

【技術のポイント】

データを暗号化して分散する秘密分散技術は、統計解析の際にデータをいったん復号化する必要性があり、脆弱性が課題であったが、秘密計算技術は暗号化したまま統計解析が可能である。NTT独自の高速化アルゴリズムの考案により、世界トップの処理速度 (ソート演算で他社比100倍以上) を実現。

- eHealth標準化の国際情勢下においてITU（国連の専門機関、国際電気通信連合）を中心に**中国等アジア諸国の攻勢が激しくなってきた**
- NTTでは、総務省と連携し、TTC（一般社団法人情報通信技術委員会）の健康・高齢化WPでの活動を通して日本の意見をFG M2Mに寄書として提出し、巻き返しを図っている状況
- Continuaを活用した一連のeHealth、mHealthサービス方をITU-T（**通信分野**）で標準化するとともに、ITU-D（**開発途上国における電気通信技術標準**）でのガイドライン化とビジネス展開を目指している
- 2013年2月4、5日 京王プラザホテル
Joint ITU-D, ITU-T eHealth Workshopを**開催予定**

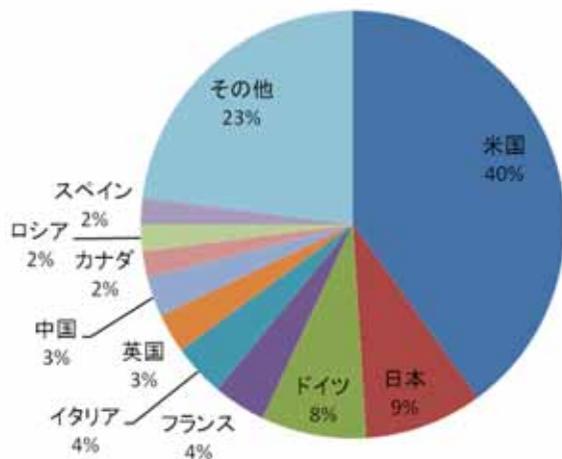
ITU-WHO Mobile for Health (mHealth) for Non Communicable Diseases (NCDs) Joint Workplan

- 2012.10.17 ITU Telecom World @Dubai
- ITUとWHOによる**非感染症（NCDs）のための mHealth Initiative**が発足
- 対象：NCDs（癌、心血管疾患、糖尿病、慢性呼吸器疾患）
- 世界的にNCDsが重要な問題となっており、各国の医療費増大の要因となっている
- ITUとWHOが連携することでこの問題の解決に向けた活動を進める
- Mobileの活用がコスト的に必須であり、教育・医療などに利用が進む。持続可能なモデルが必要



- これまで、日本の医療機器市場シェアは米国に次ぐ2位
- 今後も高齢化にともなって市場は成長していくが、**中国をはじめとする新興国での市場の拡大が予想されている**
 - ◆米国、日本、欧州のほか、中国、韓国、ロシア、インドを筆頭とする新興国が拡大
- 日本の医療機器メーカーは、中小メーカーを含めポテンシャルは高い
 - ◆新興国では保守・メンテナンスが現地代理店の能力に左右されるため、**日本企業グループで連携した保守体制を構築すれば、新興国でのシェア拡大が期待できる**
 - ◆また、新興国、途上国におけるネットワークはほとんどがモバイルであるため、**モバイル化、低価格化を実現すれば、シェア拡大が期待できる**

医療機器市場のシェア(2009年)



世界医療機器市場の推移



医療機器市場のシェア予測(2015年)

